LanSchool

© 1999 - 2011 LanSchool Technologies, LLC. 全権留保。LanSchool は LanSchool Technologies, LLC の登録商標です。その他のブランドおよび商品名は各所有者の商標です。

目次

序文 5

重要な情報 6
LanSchool に関して 6
製品の説明書 6
サポート環境 7
テクニカルサポート 8
連絡先情報 8

インストール LanSchool 7.6 9

インストールの計画 10
インストール開始前には次のような問題を考慮しておきます： 10
LanSchool 7.6 ネットワーク環境構成 13
IP サブネットと VLAN 13
LanSchool ポートの使用 13
IP マルチキャストまたは IP ディレクテッドブロードキャストとともに利用するように、LanSchool を設定 14
LanSchool 7.6 を Windows にインストールする 15
教師用コンピュータ上への LanSchool 7.6 のインストール 15
生徒用コンピュータ上への LanSchool 7.6 のインストール 16
MSI を利用して LanSchool 7.6 をスクリプトまたは大量設置する 17
シンクライアント環境で LanSchool v7.6 をインストール 18
ターミナルサーバのインストール 18
LanSchool 7.6 を NComputing デバイスにインストール 20
L シリーズ 20
X シリーズ 20
U シリーズ 20
LanSchool 7.6 を Windows マルチポイントサーバにインストールする 21
インストール 21
環境設定 21
LanSchool 7.6 を安全モードでインストール 23
パスワード安全モードを選択する 23
アクティブディレクトリ安全モード 24
LanSchool 7.6 を Windows コンピュータからアンインストール 25
LanSchool 7.6 を Mac にインストールする 26
手動インストール 26
自動インストール 27
LanSchool 7.6 を Mac にインストールする 28
LanSchool 7.6 を iOS デバイスにインストール 29
インストール 29
機能 30
LanSchool 7.6 を Windows にインストールする 32
インストール 32
機能 32
LanSchool v7.6 を Vernier LabQuest デバイスにインストール 34
インストール 34
機能 34

リモートで更新 LanSchool 7.6 35
選択した生徒の LanSchool を更新 35
LanSchool 7.6 をキオスクモードで実行 38
LanSchool 構成の優先設定 39
教師の優先設定 39
生徒の優先設定 40
ウェブ制限 41
アプリケーション制限 41
キーストローク警告 42
ドライブ制限. 42
ネットワーク. 42
チャネルの変更 44
LanSchool 教師のアップデート 44
LanSchool 生徒のアップデート 44
LanSchool セキュリティ監視 45
NAL 環境内 LanSchool 46
ウェイクオン LAN 対応 47
802.11 ワイヤレスサポート 48
特殊なハードウェア要件. 48
その他の LanSchool ユーティリティ 50

序文

ご購入いただきありがとうございます。LanSchool v7.6 クラスルーム管理ソフトウェア . LanSchool 7.6 は、先生、教授、トレーナーの方が 21 世紀の教室でより効率よく教えることができるようにアシストするために開発された評価の高いソフトウェアプログラムです。

このインストールガイドは、LanSchool v7.6 クラスルーム管理ソフトウェアと生徒と教師のアシスタントの Apple iPad*、iPhone および iPod 上へのインストール方法を説明したものです。

トピック

重要な情報

*インストール **LanSchool 7.6***

テクニカルサポート

重要な情報

この項には LanSchool 製品についての重要な情報が記載されています。

LanSchool に関して

1986 年以来、LanSchool は教師や教授、トレーナーが 21 世紀の教室で効率よく教授できるような業界をリードするソフトウェアを開発してきました。

製品の説明書

以下は文書から LanSchool v7.6 クラスルーム管理ソフトウェア書類一式が構成されています：

- *LanSchool 7.6 インストールガイド*(install.pdf) — この文書は製品のインストールをアシストするものです。
- *LanSchool 7.6 ユーザーガイド*(users.pdf) — この文書は製品の使用方法をガイドするものです。

サポート環境

LanSchool 7.6 は、以下のオペレーションシステムを実行する任意のコンピュータをサポートしています。

Windows* 98, Windows ME, Windows 2000, Windows XP-32, Windows Vista-32/64, Windows 7-32/64、Windows 2003 および 2008 ターミナルサーバ、Windows MultiPoint Server、シトリクス、NComputing X、L および U シリーズ、Mac OS 10.4 以降のバージョン、iPads、iPods ならびに iPhone 上の iOS3 と iOS4。

Mac 用 LanSchool 教師用コンソールは、OSX 10.5 以降のバージョンを使う Intel ベースの Mac ハードウェアでしか作動しないことにご注意ください。

NComputing デバイス向けのサポートは、設置されている vSpace ソフトウェアのデバイスのモデルとバージョンによります。LanSchool software で作動するプラットフォームと vSpace バージョンに関する情報については、http://www.lanschool.com/support/faq にある FAQ をご覧ください。

このリリースでは新しく、Gnome Desktop と Firefox ブラウザ (3.x または 4.x) を持つ Ubuntu-32/64 バージョン 10 または 11 を作動させている Linux の生徒もサポートしています。サポートされている機能一覧は、「LanSchool 7.6 を Linux にインストール」の項をご参照ください。将来のリリースでは、現存の生徒用ソフトウェアとの完全な同格が計画されています。

教師、生徒両方のコンピュータで LanSchool の動作に必要な最低要件は以下の通りです。

プロセッサ

PC: 166 MHz Intel® Pentium® プロセッサ以上のスピード

Mac: 700 MHz PowerPC G4、G5 以上、全 Intel ベースの Mac

RAM

- 48 MB / Windows 98 の場合
- 96 MB / Windows 2000 の場合
- 128 MB / Windows XP の場合
- 256 MB / Windows Vista の場合
- 256 MB / Windows 7 の場合
- 512 MB / Mac OS X の場合
- 512 MB / Ubuntu 10 or 11 の場合

プロトコルスタック

LanSchool が動作するすべてのコンピュータは、静的または動的 IP アドレスを実行する TCP/IP で設定されている必要があります。業務用アクセスポイントを推奨しますが、802.11 のワイヤレスにも対応しています。

シンクライアント環境ではサポートされていない機能にご注意ください :

- 無音化
- USB 制限
- 印刷制限
- “Ctrl-Alt-Del” を送信する
- キーストローク履歴の表示
- 電源オン、再起動、停止、ログオフ

テクニカルサポート

このソフトウェアは使い勝手を考え、問題がないように全力を尽くして作成されています。問題が生じた場合には、テクニカルサポートまでご連絡ださい。

Email: support@lanschool.com

電話：1-877-370-5546

営業時間：8:00am ～ 5:00pm (山岳部標準時)

連絡先情報

- ウェブサイト：www.lanschool.com
- Email: sales@lanschool.com
- 電話：1-877-370-5546
- ファクス :1-240-331-1316
- 営業時間：8:00am ～ 5:00pm (山岳部標準時)
- 住所：

  LanSchool Technologies, LLC
  770 W. 210 S.
  Orem, UT 84058
  USA

インストール LanSchool 7.6

この章では LanSchool v7.6 クラスルーム管理ソフトウェアのインストール方法を説明しています。

トピック

インストールの計画
***LanSchool 7.6** ネットワーク環境構成*
***LanSchool 7.6** を **Windows** にインストールする*
***MSI** を利用して **LanSchool 7.6** をスクリプトまたは大量設置する*
*シンクライアント環境で **LanSchool v7.6** をインストール*
***LanSchool 7.6** を **NComputing** デバイス にインストール*
***LanSchool 7.6** を **Windows** マルチポイントサーバにインストールする*
***LanSchool 7.6** を安全モードでインストール*
***LanSchool 7.6** を **Windows** コンピュータからアンインストール*
***LanSchool 7.6** を **Mac** にインストールする*
***LanSchool 7.6** を **Mac** にインストールする*
***LanSchool 7.6** を **iOS** デバイスにインストール*
***LanSchool 7.6** を **Windows** にインストールする*
***LanSchool v7.6** を **Vernier LabQuest** デバイスにインストール*
*リモートで更新 **LanSchool 7.6***
***LanSchool** 構成の優先設定*
***LanSchool** セキュリティ監視*
NAL** 環境内 **LanSchool
*ウェイクオン **LAN** 対応*
***802.11** ワイヤレスサポート*
*その他の **LanSchool** ユーティリティ*

インストールの計画

LanSchool 7.6 をインストールする前に、以下の要件を検討し、お使いのネットワークとコンピュータが正常に動作していることを確認してください。インストール中の問題を防ぐためにもこの確認を行ってください。

インストールの計画に 2 ～ 3 分をかければ、各コンピュータへの LanSchool のインストールは 2 分以内で実行できるはずです。ほとんどの場合、コンピュータ上で作動中の LanSchool ソフトウェアは、Teacher または Student 「生徒」または「教師」(大文字で) と表記され、ユーザー、実際の teachers と students 「教師」と「生徒」(小文字) や一般のデバイスとは異なっています。

インストール開始前には次のような問題を考慮しておきます：

通常クラスルーム / ラップトップカート環境、またはマンツーマン環境から選択する

通常クラスルーム / ラップトップカート環境に関しては、本説明書の後述する通常のインストール指示に従ってください。

生徒 1 人 1 人が自分のコンピュータデバイスを持つ「マンツーマン」環境で LanSchool を実行中には、生徒が教師チャネルへチャネルをかえられるようにするか、教師がリストを作成して生徒をクラスに入れさせるようにするかを決定します。

自動的に生徒をクラスに入れるようにすることをお薦めします。

機能は以下の通りです：

1. 全ての生徒のコンピュータを、教師が誰も使用していないデフォルトの「ホーム」チャネルに設定します。
2. 各教師を固有のチャネルに設定します。クラスルームの番号を使うと便利です。
3. 生徒用コンピュータにデフォルトオプションとして、チャネルをかえないようインストールします。
4. クラスリストを手動でまたはダイナミックに作成します。クラスリストは、教師のログイン ID、アクティブディレクトリ名またはコンピュータ名のいずれかに基づいて作成できます。これらリストの作成方法は、*LanSchool 7.6 ユーザーガイド* (users.pdf) に説明されています。
5. 教師用コンソール内で、現在のクラスの生徒を選択するか、適切なクラスリストを読み込んでください。この作業により、一時的に生徒をホームチャネルから教師がログオンしているチャネルに引き出します。
6. クラスを終了します。現在のクラスリストが終了すると、現在のクラスにいる全生徒にホームチャネルに戻るように命じます。クラスを活発に解散することを忘れることは問題ではありませんが、別の教師が生徒を自分のチャネルに集めて自分のクラスリストを読み込むことができます。

各クラスルームに対して独自の教師チャネルを選択します（通常クラスルーム設定)

LanSchool 7.6 は同じネットワーク上で、16,000 ものクラスルームとともに動作するよう設計されています。教師用コンピュータの内容を同じチャネル上の生徒用コンピュータにブロードキャストするためには、教師用チャネルを利用します。インストールを簡素化するために、各クラスルームは独自のチャネルを持つ必要があります。

教師チャネルをテレビのチャンネルのように考えてください。あるチャンネルを受像できるよう設定されたテレビはどのテレビでも同じ番組を受信します。同様に、ある教師チャネルに設定された全ての生徒は同じチャネルに設定された教師からのスクリーンブロードキャストを受信するわけです。ネットワーク上に 1 つの LanSchool クラスルームしかなければ、1 から 16,000 の中から任意の番号を選択できます。複数の LanSchool クラスルームがある場合は、各クラスルームはそれぞれ独自の教師チャネル番号が必要です。

各クラスルーム用に、教師用コンピュータとなるコンピュータを決定する

通常、ラボ 1 つに 1 台の割合で教師用コンピュータを設定することになります。教師はこのコンピュータを使って、同じクラスルーム内のすべての生徒用コンピュータを制御します。インストールの間に、コンピュータが「教師」または「生徒」用コンピュータのどちらであるかを指定する必要があります。

各ラボには複数の教師用コンピュータを設定することもできますが、行動の「制限」に関して、制限を実行する最初の教師に、同様の制限を実行しようとする以降の教師に対しての優先権が与えられます。なんらかの理由で最初の教師がオフラインになれば、次の教師が制限するアクションが引き継ぎますので、設定を同じにしておくとよいでしょう。教師が現在のチャネルにいる場合、生徒は 20-30 秒間でホームチャネルに戻ります。

全生徒・教師用コンピュータに有効な TCP/IP プロトコルスタックを設定します。

コンピュータが DHCP を使用していれば、DHCP は適切に機能するはずです。教師用と生徒用コンピュータが全て同じ IP サブネットであればベストです。LanSchool 7.6 は静的 IP アドレスで動作しますが、必須ではありません。

教師用と生徒用コンピュータが同じ IP サブネットではない場合、マルチキャストまたは IP ディレクテッドブロードキャストを使用し、スイッチがこれらの機能をサポートしているか確認して下さい。伝送と発見方法に関するさらなる情報については、「インストール LanSchool 7.6、VLAN 内」の項を参照してください。

良好なネットワークハードウェアおよびソフトウェアを使用する

あなたのクラスルームがすでにネットワークエラーを経験している場合、LanSchool 7.6 は事態をさらに悪化させます。コンピュータにログオンする際、またはネットワーク上でファイルをコピーする際に問題がある場合は、LanSchool をインストールする前に問題を解決してください。

業務用アクセスポイントを利用する

ワイヤレス ネットワーク上で LanSchool 7.6 を利用する場合は、業務用のクラスアクセス ポイントを利用することが重要です。通常、100 ドル以下の個人家庭用ネットワークワイヤレスアクセスポイントは多数の接続を処理できるほど頑丈ではありません。生徒の接続を確実に処理可能な 200 ドルから 300 ドルの価格帯のアクセスポイントをお薦めします。

生徒に LanSchool 7.6 アイコンにアクセスさせるかどうかを決定する

生徒に LanSchool アイコンにアクセスさせたくない場合は、生徒用のインストールを実行し、*詳細オプション*を選択し、*お忍びモード*を選択します。

安全モードで LanSchool を作動させたいか決定してください

LanSchool インストールには 2 つのセキュリティモードが提供されています。ひとつまたは両方の安全モードでインストールが可能です。LanSchool 7.6 を安全モードで実行すると、教師は、特定のチャネル上の生徒を見るためにパスワードをタイプする必要があります。もしもこのモードが教師インストールに選択される場合、生徒インストールにも同じモードが選ばれなければなりません。インストールの方法については、この説明書に後述する「LanSchool 7.6 安全モード内インストール」を参照してください。

LanSchool 7.6 をアクティブディレクトリ安全モードで実行し、*LanSchool 教師*が特定のチャネル上の生徒を見る際には、ドメインユーザーグループのメンバーである必要があります。インストールの方法については、この説明書に後述する「LanSchool 7.6 安全モード内インストール」を参照してください。

Terminal Services、MultiPoint Server、Citrix、NComputing のいずれかでインストールする必要があるかを決定する

LanSchool 7.6 は、シンクライアント、ファットクライアント、あるいはその混合の環境のいずれでも動作します。シンクライアント対応のインストール方法については、本説明書内で後述するシンクライアント環境で LanSchool 7.6 をインストールの項、または「マルチポイントサーバ内で LanSchool 7.6 をインストール」の項を参照してください。

Mac でソフトウェアをインストールするかどうかを決定する

LanSchool 生徒と教師のアプリケーションは Mac 上で動作します。Mac への LanSchool 7.6 のインストール方法は、本説明書内で後述する「LanSchool 7.6 を Mac にインストール」の項を参照してください。

Linux で生徒用ソフトウェアをインストールするかどうかを決定する

LanSchool 生徒は、10 または 11 で動作しますが、機能セットには制限があります。Linux への LanSchool 7.6 のインストール方法は、本説明書内で後述する「LanSchool 7.6 を Linux にインストール」の項を参照してください。

iOS デバイスをクラスルームに含めるか決定してください

LanSchool は、iPad、iPhone または iPod などの Apple デバイスをクラスルームに含める無料ソフトウェアを提供します。これらデバイスを含める方法については、本説明書内で後述する「iPad、iPhone または iPod を LanSchool 7.6 上にインストール」の項を参照してください。

LanSchool 7.6 ネットワーク環境構成

デフォルトでは、LanSchool は全生徒教師と同じ IP サブネットにあるものとみなします。しかし、教師が生徒と別のサブネット (または別のセグメント) にいるときでも、LanSchool が適切に機能するように設定することは可能です。

IP サブネットと VLAN

教師が生徒のコンピュータの別の IP サブネットにいる場合、LanSchool が使用するデフォルトの “IP ブロードキャスト ” UDP パケットは生徒により受け取られることはなく、マシンは生徒リスト内で表示されません。代わりに、IP マルチキャストまたは IP ディレクテッドブロードキャストパケットのいずれかを使用するには、教師ソフトウェアの環境設定を行わなければなりません。

IP マルチキャストは、ひとつのデバイス (教師) を持ち、単一デバイスでなく特別の複数キャストアドレスを使い一連の受取人 (生徒) にメッセージを送信する能力をサポートします。IP ディレクテッドブロードキャストは、特別なアドレスで、(適切に形成されている場合) 目的地のサブネットに到着するまであなたのネットワークを単一のディレクテッド UDP パケットに変換します。目的地のサブネットを検索時に、ルーターはパケットを標準的な UDP ブロードキャストパケットに転換します。

どちらの輸送方法でも、まずあなたのネットワークルーターがその機能を作動させるためのサポートを持っているか確認することが大切です。IP ディレクテッドブロードキャストが作動するためには、あなたのルーターは IP ディレクテッドブロードキャストパケットを転送するよう設定されていなければならず (時として、ルーターはこれらを「UDP ディレクテッドブロードキャスト」と称します)、パケットのアドレスが適切に形成されていなければなりません。あなたのネットワークデバイスの機能や環境設定に関するさらなる情報については、ネットワーク管理者に連絡するか、ハードウェアの製造者の説明書を参照してください。

LanSchool ポートの使用

LanSchool の主なポート番号は、796 (または 0x31C hex) です。すべての非ステータスブロードキャストとマルチキャストパケットは、このポートに送られます (796)。これらパケット用ソースポートはダイナミックで (時として「一過性」と呼ばれます)、つまり動作時間にて TCP/IP によって決定され、特定することはできません。一般的に、49152–65535 の域になります。すべての LanSchool PC は、must allow data traffic on ポート 796 上にデータトラフィックを受信するよう許可しなければならず、伝送されたデータが一過性ソケット上で省略するよう意図しないようにしなければなりません。

LanSchool 教師が特定の生徒にアクションを行っている場合 (

制御、サムネイル、合併、チャットなど)、セッション向き TCP パケットが使用されます。生徒がファットクライアント機械である場合、目的地ポートもまた 796 となります。ソースポートもまた、ダイナミックとなります。

シンクライアントとなるのは特別なケースです。全 UDP 非ステータスブロードキャストとマルチキャストパケットは、まだポート 796 に送信されますが、生徒がシンクライアント生徒の場合、全 TCP パケットはダイナミックポートに送信されます。したがって各生徒用ポートは独自のものです。この場合、教師が TCP パケットをダイナミックポートからダイナミックポートへ送ることが可能です。しかしながら、ターミナルサーバ環境内のほとんどの TCP/IP トラフィックは、同コンピュータ内で起こり、ほぼ内部処理コミュニケーションに留まっています。

追加の UDP ステータスパケットがひとつあり、ネットワーク上の LanSchool の活動をモニタするために使われています。トラフィックはポート 1053 で開始され、常にポート 1053 に送信されます。ブロードキャストまたはマルチキャストパケットのいずれかです。LanSchool はステータスパケットなしで動作しますが、機能が減少されます (特に、生徒が時間前にクラスを離籍するのを検知するために使われる登録データパケットがマンツーマン環境にある場合。)

全マルチキャストパケットは、239.0.208.0 から 239.0.208.255 のアドレス域にあります。IP マルチキャストが転送手段として選択される場合、ルーターはデータをこのアドレス域に転送するよう設定されなければなりません。IP ディレクテッドなブロードキャストが選択される場合にも、全トラフィックはポート 796 (0x031C) とポート 1053 (0x41D) (ソースか目的地のいずれか) に、サブネット間を自由に移動できるように設定されなければなりません。

LanSchool は、IP ディレクテッド設定内で使用する適切なアドレス決定を手助けするツールを提供します。DirBCastAddr.exe と呼ばれ、インストールパッケージ内にあります。パッケージをアンジップ後、ツールは Windows フォルダ内の「ユーティリティ」サブフォルダ内で見つけられます。ファイルをクリックし、その生徒のサブネットマスクとともにターゲットサブネット上のいずれかの生徒用コンピュータの IP アドレスを入力します。両方のアドレスを入力したら、「計算」ボタンをクリックします。

IP マルチキャストまたは IP ディレクテッドブロードキャストとともに利用するように、LanSchool を設定

上記のとおりネットワークデバイスを設定後、LanSchool ソフトウェアをその伝送方法で使用するように設定します。

1. 管理者を選択 | 教師用コンピュータ上のコンソールより優先権。
2. ネットワークタブ上で、「データ伝送」の項目内の IP マルチキャスト または IP ディレクテッドブロードキャストを選択します。
3. IP ディレクテッドブロードキャストが優先される方法であるとき、DirBCastAddr.exe ユーティリティが正しいとする決定された IP アドレスを入力します。複数のサブネット上で特定の教師用コンピュータが生徒用コンピュータと通信しなければならない際には、続くサブネットのアドレスを追加します。

各教師インストールは、インラタクトする生徒が所在するサブネットとのみ設定されなければなりません。したがって、3 つ以上のサブネットを持つ環境では、別の教師用コンピュータがネットワーク設定ダイアログ内の別のサブネットアドレスを持つことができるようになり、持つようになります。特定の教師インストールで 3 つ以上のサブネットが必要となるまれなケースでは、テクニカルサポートまでお問い合わせになってさらなるサポートを受けてください。

教師用コンソールを起動することにより、実行を有効化することができます。これはこの時点で、自動的に他のサブネット上の生徒用コンピュータを発見するでしょう。UDP データがネットワークを適切に通過中の場合、教師はスクリーンをブロードキャストできるか、生徒のスクリーンを空白にできます。教師が「生徒リスト」内の生徒のサムネイルを閲覧できたり、リモートで生徒画面を閲覧できたりもする場合には、TCP データもまたネットワークを適切に通過しているということです。LanSchool は仲間から仲間へのアプリケーションですので、サブネット通過の際には、充分に機能するためには UDP トラフィックと TCP トラフィックの両方が要求されます。

LanSchool 7.6 を Windows にインストールする

LanSchool 7.6 には Windows 対応の 2 つのインストールプログラムがあります。

- teacher.msi
- student.msi

LanSchool 7.6 をインストールするには、適切な msi ファイルを教師用コンピュータか生徒用コンピュータに動作させなければなりません。インストールにより、各コンピュータ上の「C:\Program Files\LanSchool 」フォルダが作成され、全ファイルはコンピュータ上でローカルに保存されます。

インストールを完了したら、コンピュータが始動するたびに生徒または教師のプログラムが始動します。教師用コンピュータでは、コンピュータ画面の右下隅のシステムトレイの中に、LanSchool アイコンが表示されます。小さな、緑色の、円が重なったアイコンです。LanSchool の使用を開始するには、ショートカットメニューを右クリックして開くか、LanSchool コンソールを左クリックして開きます。

生徒用コンピュータでは、コンピュータ画面の右下隅のシステムトレイの中に LanSchool 生徒アイコンが表示されます。カーソルをアイコンの上に置くと、教師チャネルと生徒のコンピュータの IP アドレスが表示されます。

教師用コンピュータ上への LanSchool 7.6 のインストール

1. 「マイ コンピュータ」で、LanSchool 製品をダウンロードした場所に行き、Windows フォルダ内で *teacher.msi* をダブルクリックします。
2. *次へ*をクリックします。
3. 表示されるライセンス契約書を読み、*同意する* をクリックし、*次へ*をクリックします。
4. 教師チャネル番号（1 ～ 16,000）を入力し、*次へ* をクリックします。各クラスルームが独自に持っている番号を選択するよう注意してください。
5. 必要があれば、詳細オプションを選択します。「*詳細オプション設定をチェックする*」の欄をチェックします。これらオプションのほとんどは生徒用コンピュータになるときには、教師上でのみ適用されます。
6. 望ましい場合、安全モードオプションを選択します。この説明書に後述する「LanSchool 7.6 を安全モードでインストール」の項目を読んでいない場合、どちらのモードを選択することも要求されておらず、推奨されてもいません。*安全モードを有効化する*の欄をチェックすると、安全モードのどちらか、あるいは両方を選択できるようになります。*安全モードパスワード*が選択されると、教師インストールと生徒インストールの両方がチャネルを指定するためにパスワードを要求します。もしも*アクティブディレクトリ安全モード*が選択されると、教師は LanSchool 教師と呼ばれるアクティブディレクトリグループに属しなければならず、あなたの組織の IT スタッフがこれを作成しなければなりません。
7. *インストール*をクリックします。
8. *終了*をクリックしてインストールを終了します。
9. 教師が以前にそのデバイスにインストールされていた場合、現在のファイルを更新するために再起動しなければなりません。

デフォルトでは、教師はチャネルを変更不可能な状態でインストールされています。教師にチャネルを変更させる能力を与えたい場合、または複数チャネルを表示する能力を与えたい場合、製品ダウンロードから Windows フォルダ内の「ユーティリティ」サブフォルダ内にある「EnableChannelSelect.exe」ユーティリティをコピーして、動作させなければなりません。

生徒用コンピュータ上への LanSchool 7.6 のインストール

1. 「マイコンピュータ」内で、LanSchool 製品をダウンロードした場所に行き、Windows フォルダ内で *student.msi* をダブルクリックします。
2. *次*へをクリックします。
3. 表示されるライセンス契約書を読み、*同意する* をクリックし、*次*へをクリックします。
4. 生徒を管理する教師チャネル番号 (1 から 16,000) をタイプするか、マンツーマンの環境では生徒デバイスを決定するホームチャネル番号をタイプします。各クラスルームが独自に持っている番号を選択するよう注意してください。*次*へをクリックします。
5. 詳細オプションを設定したい場合は、「*詳細オプション設定をチェック*」欄をチェックします。
6. 適宜、詳細オプションを設定します。
7. *インストール*をクリックします。

   *終了*をクリックしてインストールを終了します。

詳細オプションには、以下の選択肢が含まれます。詳細については、後述する「MSI 経由での LanSchool 7.6 スクリプトと大量設置」にあります。

- 「お忍びモード」- システムトレイアイコンが生徒用コンピュータ上に表示されないようにする
- チャネル変更 - 生徒がオンデマンドのチャネルを変更できるようにする
- キーボード監視なし　-　生徒用コンピュータ上のキーボード監視を解除する
- インターネット監視なし　-　生徒用コンピュータ上のインターネット監視を解除する
- タスクマネージャ / アクティビティ監視を許可　-　生徒用コンピュータ上でのタスクマネージャ / アクティビティ監視を制限

MSI を利用して LanSchool 7.6 をスクリプトまたは大量設置する

teacher.msi または *student.msi* をスクリプトまたはデスクトップ管理ツールから実行したい場合は、LanSchool をインストールするためのコマンドラインオプションがあります。*msiexec.exe* を実行すると、機能を有効にするために、各値がヌル値以外の値（1 など）に設定されます。*Msiexe.exe* コマンドラインパラメータは、*msiexec.exe* を実行することで見つかります。*Msiexec.exe* は Microsoft のプログラムです。

- CHANNEL="X"
  教師チャネル X で LanSchool をインストールします。「X」は 1 ～ 16000 の整数である必要があります。
- ADVANCED_OPTIONS
  以下の詳細オプションのいずれかを設定するよう要求されています。
- STEALTH_MODE
  ヌル値以外の値に設定時に LanSchool アイコンが生徒用コンピュータ上で表示されないようにする詳細オプション
- STUDENT_CHANGE_CHANNEL_MODE
  ヌル値以外の値に設定時に、生徒が教師チャネルを変更できるようにする詳細オプション。
- NO_KEYBOARD_MONITORING_MODE
  ヌル値以外の値に設定時に生徒キーストロークが生徒用コンピュータ上で記録されないようにする詳細オプション。
- NO_INTERNET_MONITORING_MODE
  ヌル値以外の値に設定時にインターネット履歴が生徒用コンピュータ上で記録されないようにする詳細オプション。
- AD_SECURE_MODE
  ヌル値以外の値に設定した場合、教師または生徒はアクティブディレクトリ安全モードに入ります。生徒を管理できるのは、ドメインユーザーグループ「LanSchool 教師」のメンバーになっている教師のみです。
- SECURE_MODE
  ヌル値以外の値に設定した場合、生徒用コンピュータに接続するには教師用コンソールにパスワードが入力されなければならない、製品のパスワード安全バージョンがインストールされます。また、生徒用コンピュータもこのモードでインストールされなければなりません。
- パスワード
  安全モードにする際に、パスワードが必要になります。
- PASSWORD_CONFIRM
  パスワード安全モードにする際に、パスワードの確認が必要になります。
- TASK_MANAGER_LIMIT
  ヌル値以外の値に設定した場合、教師がタスクマネージャとアクティビティ監視を制限するかしないかを決定できる詳細オプション。
- ENABLECHANNELSELECT
  ヌル値以外の値に設定した場合、ひとつまたは複数のクラスルームを見るために教師はチャネルを変更できます。

例えば、test」というパスワードを使って、チャネルは変更可能だが 3 チャネルで開始するというパスワード安全モードの教師用を無音でインストールしたい場合、スクリプトは次のようになります。

```
Msiexec.exe /i "<path to teacher.msi>\teacher.msi" /qn ADVANCED_OPTIONS=1 SECURE_MODE=1 PASSWORD=test
PASSWORD_CONFIRM=test CHANNEL=3 ENABLECHANNELSELECT=1
```

シンクライアント環境で LanSchool v7.6 をインストール

LanSchool 7.6 はターミナルサーバ、NComputing、MultiPoint server、またはシトリクス環境をサポートしています。LanSchool はシンクライアントコンピュータを生徒および / または教師用コンピュータとして使用可能にします。クラスルームではシンクライアントコンピュータと従来のクライアントコンピュータ（「ファットクライアント」）を自由に組み合わせて使用できます。

ターミナルサーバのインストール

ターミナルサーバのインストールは次の 2 つの手順で実行します。まず、ターミナルサーバ上で、*TerminalServer.msi* を実行する必要があります。この作業により、全て必要なファイルがターミナルサーバにコピーされますが、ターミナルサーバクライアントコンピュータを教師用または生徒用として設定することはありません。

ターミナルサーバが「実行)」モードになっていれば、「インストール後」のダイアログが表示されます。LanSchool 7.6 はターミナルサーバにインストールできるよう設計されていますので、このダイアログを完了させる必要はありません。いつでも、ダイアログ内の「*キャンセル*」ボタンを押してかまいません。

この第一手順を完了したら、LanSchool ファイルはターミナルサーバにコピーされています。使いたい各シンクライアントのコンピュータ上で動作するよう LanSchool を適切に設定する必要があります。次の 3 つの方法のいずれかでこれを実行します。

1. 生徒または教師の手動環境設定
   管理者の権限を使ってシンクライアントにログインし、*SetupTSClient.exe* 環境設定を実行します。クラスルーム内の各シンクライアント デバイスでこの手順を繰り返します。
2. 生徒または教師のスクリプト環境設定
   SetupTSClient.exe ユーティリティをスクリプトすることができます。以下のコマンドラインオプションが認識されます：

#X	「X」が希望チャネル番号である場合、教師チャネルを環境設定します。
StUdEnT	LanSchool 生徒ソフトウェアをログイン時に実行するシンクライアントデバイスを環境設定します
TeAcHeR	LanSchool 教師ソフトウェアをログイン時に実行するシンクライアントデバイスを環境設定します
PaSsWoRd	セキュリティパスワードの指定を可能にします
アンインストール	シンクライアントデバイスが LanSchool ソフトウェアに読み込みできなくなるように環境設定します
QUIET	サイレント環境設定を実行します（これは指定された最後のオプションでなければなりません）

3. LskTSDat.ini file

以前の「手動環境設定」が LanSchool 環境設定ファイル (C:\Program Files\LanSchool\LskTSDat.ini) を編集します。各シンクライアント上で *SetupTSClient.exe* の実行を希望しない場合、ノートパッドのようなテキスト編集ソフトで直接 *LskTSDat.ini* ファイルを編集できます。

ファイル内に各シンクライアント用にエントリーがあり、これが LanSchool 生徒または教師用のソフトウェアのいずれかを実行します。.ini ファイルのフォーマットは次の通りです：

[LanSchool TSClient List]

THINCLIENT001001=Teacher, Channel=1, Name=Teacher1

THINCLIENT 001002=Student, Channel=1, Name= THINCLIENT001002

THINCLIENT 001003=Student, Channel=1, Name= THINCLIENT 001003

THINCLIENT 001004=Student, Channel=1, Name= THINCLIENT 001004

DEFAULT=Student, Channel=1, Name=Default

各ラインの最初の部分 (この例では THINCLIENT001001) はそのシンクライアントの「クライアント名」です。各シンクライアントデバイスには、製造業者が設定した、あるいはハードウェア環境設定時に設定された独自のクライアント名があります。この名前は、デバイスにログインし、コマンドプロンプトから「設定」コマンドを入力して見つけられます。多くの IT 部門では、各シンクライアントデバイスのクライアント名のリストがあります。

クライアント名「デフォルト」はデフォルト設定として使用することが可能です。シンクライアントが *LskTSDat.ini* ファイル内でシンクライアントを見つけられない場合、デフォルト入力の環境設定であると推測します (もしそのような入力が存在する場合)。

注意：シンクライアントデバイスの中にはデバイスに独自のクライアント名を設定する環境設定が必要な場合があります。LanSchool は全てのシンクライアントデバイスに独自のクライアント名を持たせる必要があります。シンクライアントデバイスの書類を確認し、各デバイスが独自のクライアント名を所有していることを確認して下さい。

クライアント名をタイプした後は、シンクライアントデバイス上で実行する LanSchool ソフトウェアのタイプです（生徒または教師のいずれか)。次のパラメータがそのシンクライアントに使用する LanSchool チャネルを定義します。一般的に、同じクラスルーム内にあるシンクライアントのデバイスはすべて、同じチャネル番号を持っています。

最後のパラメータは LanSchool 表示名を定義します。生徒はログイン名とこの名前の両方と一緒に教師用コンソールに表示されます。デフォルトでは、クライアント名を使いますが、もっと意義深い名前を希望する場合、変更が可能です。

負荷バランシングの場合（複数のターミナルサーバが同じクラスルームで使われている）には、全ターミナルサーバに LanSchool ソフトウェアをインストールし、次に、完了した *LskTSDat.ini* ファイルを全ターミナルサーバに複製する必要があります。もし多くのターミナルサーバの負荷バランスが同じである場合、共通の *LskTSDat.ini* ファイルを共有するように LanSchool を環境設定することが可能です。指示を受けるためには LanSchool サポートまでご連絡下さい。

LanSchool 7.6 を NComputing デバイスにインストール

NComputing は、各バーチャルデスクトップをホストする中央サーバに、直接またはイーサネット経由で多数のアクセスデバイスを提供します。これらデバイスには、L、U および X シリーズのコンピュータが含まれます。NComputing デバイス向けのサポートは、設置されているハードウェアの世代と vSpace ソフトウェアのデバイスモデルとバージョンによります。サポートはどちらかと言うとダイナミックであるため、このバージョンの LanSchool とサポートされているハードウェアモデル、オペレーティングシステムおよび vSpace の組み合わせについての最新情報は、FAQ ページ上の NComputingpage マトリクス、
http://www.lanschool.com/support/faq を参照してください。

L シリーズ

L シリーズのプラットフォームでは、単独のホストコンピュータを最大 30 ユーザーで共有できます。標準イーサネットインフラストラクチャにより、クライアントハードウェアはホストに帰属しています。L シリーズ構造は標準ターミナルサーバと同様なため、初めに LanSchool ファイルを TerminalServer.msi パッケージが入った L シリーズのホストコンピュータにコピーしなければなりません。

X シリーズ

X シリーズのプラットフォームでは、単独のコンピュータを最大 11 ユーザーで共有できます。ホストマシンには、X シリーズ PCI カードが最大 2 枚インストールされています。ソフトウェアをホストの全てのクライアントにインストール後、ホストを再起動し、全てのユーザーは再度ログインします。インストールの方法はターミナルサーバのインストール（上記に詳細説明済み）の方法と同様です。初めに LanSchool ファイルを *TerminalServer.msi* パッケージが入ったホストコンピュータにコピーしなければなりません。それから *SetupTSClient.exe* ユーティリティを使用してクライアントマシンの環境設定を行います。

U シリーズ

U シリーズプラットフォームは、ステーションが Windows マルチポストサーバに接続でされているときにのみサポートされます。

シンクライアントにおける制限

シンクライアントに対して全ての LanSchool 機能を実施できるように努力をしていますが、制限もあります。以下はシンクライアント上で動作しない機能をまとめたリストです。

- 無音化
- USB 制限
- プリンター制限
- 電源
- シャットダウンまたは再起動
- 生徒チャネルの変更 (現在 .ini ファイルから可能）
- 生徒表示名の変更 (現在 .ini ファイルから可能）
- 拡張生徒硬化（シンクライアントデバイスはサーバからロックダウンされると仮定）

LanSchool 7.6 を Windows マルチポイントサーバにインストールする

LanSchool 7.6 の新しいものに、Windows Multipoint 2011 サーバ用教師特別プラグインバージョンがあります。Windows Multipoint 2010 のインストールと違い、新バージョンは なじみのある LanSchool アイコンでマルチポイントマネージャ内に起動ポイントを作成します。このアイコンを選択すると、教師は簡単に同じインターフェースで　WMS 2011 と LanSchool 7.6 製品の両方の全機能にアクセスすることが可能になります。

インストール

1. Windows マルチポイントサーバ 2010 では、サーバをメンテナンスモードで起動します。自動的にそのモードに切り替わるため、2011 バージョンではこのステップは必要ありません。
2. 管理者としてログインする。
3. LanSchool 製品ダウンロードのロケーションに行き、「マルチポイントサーバフォルダ」から MutipointSever2010.msi または MultipointServer2011.msi をダブルクリックします。
4. これにより、すべての必要なファイルがサーバにコピーされ、すべての必要なレジストリ値が設定されます。選択可能なインストールオプション詳細については、「MSI 経由での LanSchool 7.6 スクリプトまたは大量設置」の項にあります。これは MultiPoint.msi パッケージにも適用されます。

環境設定

デフォルトでは、LanSchool 管理者グループの一員であるいずれのメンバーもログイン時に LanSchool 教師用コンソールを作動させます。管理者グループの一員でない全メンバーは、ログイン時に LanSchool 生徒用コンソールを作動させます。

デフォルトアクションを 3 つのオプションのローカルユーザーグループで作成・配置させることが可能です。

ローカルユーザーグループ

- LanSchool 生徒
- LanSchool 教師
- NotTeacherOrStudent

上述の 3 つのオプションのローカルユーザーグループで例外を作成することができます。

ユーザーが教師または生徒用ソフトウェアのいずれも動作させないことになっている場合、そのユーザーをローカルユーザーグループ「NotTeacherOrStudent」の一員として追加します。

ユーザーが教師ソフトウェアを動作させることになっているが管理者グループの一員でない場合、そのユーザーをローカルユーザーグループ「LanSchool 教師」に追加します。

同様に、管理者グループの一員であるが生徒用ソフトウェアを動作させるべきではない場合には、そのユーザーをローカルユーザーグループ「LanSchool 生徒」に追加されます。

ドメインユーザーグループ

ユーザーがドメインにログインした場合 (これはマルチポイントサーバ 2010 または 2011 のボリュームライセンスビルドでのみサポートされています)、ローカルユーザーグループを探す前にドメインユーザーグループ内のグループメンバーシップがまずチェックされます。チェックされるドメインユーザーグループは：

- ドメイン管理
- LanSchool 教師
- LanSchool 生徒
- NotTeacherOrStudent

制限

マルチポイントサーバは各ターミナルデバイス用に独自「クライアント名」を提供しないため、「クラスルームレイアウト」機能には対応していません。

LanSchool 7.6 を安全モードでインストール

LanSchool 7.6 は、希望に応じて追加レベルのセキュリティをインストールする能力を持っています。2 つのモードが利用でき、「パスワード安全」と「アクティブディレクトリ安全」、そしてその一方または両方を選択することができます。オプションが適切にインストールされていない場合、教師が望むチャネル上で通信できず、生徒にアクセスできなくなります。

パスワード安全モードを選択する

このモードには , 特定のチャネルの生徒を見るコンソールが立ち上げられると、教師がパスワードを入力しなければならない機能が付いています。この機能により、非認証コンソールの使用を防ぐ特別な安全レベルを追加します。

インストールステップ：

1. *teacher.msi* または *student.msi* ファイルのいずれかをダブルクリックし、上述のとおりインストールを設定します。パスワードで保護されたバージョンをインストールする場合には、*安全モードを有効化する*欄をチェックしてください。
2. *安全モードを選択する。*
3. パスワードを入力し、確認のため再度入力してください。
4. 教師用または生徒用のコンピュータにこれらのステップを繰り返します。

教師用コンピュータが「生徒になる」機能を使い、なおかつ安全であるためには、教師用インストール上でパスワードが要求されます。

教師がコンソールを立ち上げる、またはチャネルを変更する際に、特定のチャネルやチャネルのグループ上の生徒を見るためにはパスワードが要求されます。

スクリプトまたはアクティブディレクトリを使用して教師用または生徒用コンピュータ上にパスワード保護バージョンをインストールするには、「MSI を利用して LanSchool 7.6 をスクリプトまたは大量設置する」の項を参照して下さい。

.adm テンプレートを LanSchool 安全バージョンで使用するには、コンピュータポータルにログインし、.adm ファイルのパスワード欄に入れるキーを生成しなければなりません。

パスワード安全モードで、教師または生徒のみで、両方がインストールされていない場合、教師は生徒にアクセスできません。これは、生徒アイコンの「セキュリティロックアウト」アイコンに表示されています。生徒のバージョン番号をチェックすると、これが当てはまるか確認することができます。生徒システムトレイ内のアイコンの上にマウスを当てると、次のようにバージョン番号が表示されます：

v7.6.0.53Ls、v7.6.0.53Sd または v7.6.0.53Sds

小文字が安全識別で、「s」は「パスワード安全モード」を、「d」はアクティブディレクトリバージョン番号」を示します。大文字の L と S は、実際には安全識別子ではなく、選択されている LanSchool インストールを意味しています。L はライトバージョンの意味で、S はサブスクリプションライセンスの意味です。システムは、安全モデルに合致しないデバイスをロックアウトします。安全ロックアウトの問題を修正するには、安全モードオプションを修正するため生徒は再起動しなければなりません。

注意：教師のパスワードが漏れた場合、新しいパスワードで教師用と生徒用の両方を再インストールする必要があります。

アクティブディレクトリ安全モード

認証された教師のみが生徒を制御できるようにするため、LanSchool 7.6 は Windows アクティブディレクトリに挺入れできます。このモードは、非認証コンソールの使用を防ぐ特別な安全レベルを追加します。また、このモードはアクティブディレクトリードメイン環境で Windows 2000 以降のシステムでのみ機能します。

このモードを完全に環境設定するには、ドメインユーザーグループを作成・追加するドメイン権利をもっていなければなりません。

インストールステップ：

1. *teacher.msi* または *student.msi* ファイルのいずれかをダブルクリックし、上述のとおりインストールを設定します。パスワードで保護されたバージョンをインストールする場合には、*安全モードを有効化する*欄をチェックしてください。
2. *アクティブディレクトリ安全モード*を選択します。
3. 教師用または生徒用のコンピュータにこれらのステップを繰り返します。

スクリプトまたはアクティブディレクトリを使用してアクティブディレクトリ安全モードを教師用または生徒用にインストールするには、「MSI を利用して LanSchool 7.6 をスクリプトまたは大量設置する」の項を参照して下さい。

このモードの時に、教師は必ず「LanSchool 教師」のドメインユーザーグループのメンバーでなければなりません。教師がそのグループのメンバーでない場合、アクティブディレクトリ安全モードの生徒はその教師とはインタラクトできません。

適切な Windows サーバ 2003 または 2008 アクティブディレクトリツールを使って「LanSchool 教師」ドメインユーザーグループを作成します。グループを作成後、適切な教師と一緒にグループを表示するために同じツールを使うことができます。

パスワード安全モードは、生徒と教師両方がこのオプションでインストールされていることを要求しますが、アクティブディレクトリモードは少し違います。生徒がアクティブディレクトリ安全モードを有効化しているとき (または「LanSchool 教師」グループの一員でないとき)、アクティブディレクトリ安全モードでインストールしていない教師は安全ロックアウトされます。この制限は反対方向では行われません。アクティブディレクトリ安全モード教師 (「LanSchool 教師」グループの一員) は、アクティブディレクトリ安全モードを有効化していない生徒を制限なしに制御することができます。

注意：アクティブディレクトリ安全モードは Mac ユーザーの教師や、Linux または Mac の生徒にはご利用いただけません。

LanSchool 7.6 を Windows コンピュータからアンインストール

LanSchool ソフトウェアが許可を受けずに削除されることを防ぐために、インストールは改ざん不可になっています。よくある Windows 内の追加や除去のプログラムを使用する代わりに、LanSchool ではソフトウェア削除の際にはオリジナルのインストールパッケージがなければなりません。

.msi install インストールパッケージは、トグルスイッチのような働きをします。LanSchool 7.6 を Windows コンピュータからアンインストールするには、製品を最初にインストールしたのと同じファイルをダブルクリックし、インストールプログラムを再度インストールするだけです。これによりソフトウェアは削除されます。ファイルを選択し再作動させると、ソフトウェアは再インストールされます。

ダウンロードパッケージが手元にない場合、カスタマーポータル内のカスタマーアカウントから再度ダウンロードします。ご自分のアカウントにアクセスできない場合、テクニカルサポートにお問い合わせいただくと .msi ファイルの写しを提供いたします。インストールされているソフトウェアの完全なバージョンを知っている必要があります。これは、教師用コンソールの生徒リスト表示内、またはローカルではシステムトレイ内の LanSchool アイコンの上にマウスを当てて見ることができます。このリリースのバージョンは、7.6.0.48 といったものになるでしょう。

生徒たちが「お忍びモード」でインストールされている場合、LanSchool アイコンはシステムトレイ内に表示されません。生徒が「お忍びモード」でインストールされているか調べるには、教師用コンソールのリストに記載されているか参照するだけです。なんらかの理由で記載されていないがインストールされている場合、確認方法はふたつあります。生徒のタスクマネージャにアクセスできる場合 (通常は Ctrl-Alt-Del を使うとできます)、student.exe と呼ばれるプロセスのもとにエントリーがあり、これにより LanSchool がインストールされていることが分かります。

タスクマネージャにアクセスできない場合、「生徒診断」と呼ばれるサポートフォルダにユーティリティがあります。このプログラムを生徒用コンピュータで動作すると、最初に利用できるテストは「ローカルインストールのテスト」です。このテストでは、LanSchool がインストール・作動しているか、またチャネル番号やバージョン、その他関連データが分かります。このツールを使用の際にはテクニカルサポートに問い合わせてヘルプを受けてください。

「マイ コンピュータ」で、LanSchool 製品をダウンロードした場所に行き、*teacher.msi* をダブルクリックします。

1. 教師用コンソールでは *teacher.msi.* を動作してください。生徒用コンソールでは *student.msi.* を動作してください。
2. ソフトウェアを削除するよう指示されますので、*次に*をクリックしてください。
3. *削除*をクリックします。
4. *終了*をクリックします。

スクリプトを使って無音で LanSchool 7.6 をアンインストールするには、以下のパラメータで Msiexec.exe を動作させます :

Msiexec.exe /x “< パスから teacher.msi>\teacher.msi” /qn へ

Msiexec.exe /x “< パスから student.msi>\student.msi” /qn へ

LanSchool 7.6 を Mac にインストールする

LanSchool 7.6 は、Mac コンピュータ上の生徒に対して、教師としてまたこのプラットフォームを動作させている生徒のサポートとして監視・管理の両方を行う能力を持っています。このリリースの新しい点として、Mac OS X 10.7 Lion 最新バージョン向けのサポートがあります。Mac 10.4 または以降のインストールプロセスは Windows のインストールに似ていますが、少し違いがあります。

手動インストール

カスタマーポータルから LanSchool インストールファイルをダウンロードし、そのファイルを解凍します。

教師のコンピュータへのソフトウェアのインストールは次の手順で行います：

1. Mac フォルダから *lanschool_teacher.dmg* を Mac 教師用コンピュータにコピーします。
2. *lanschool_teacher.dmg* をダブルクリックします。
3. *lanschool_teacher.pkg* をダブルクリックします。
4. ソフトウェアライセンス契約のインストールウィザードに従います。ライセンスの条件を読んだら、*継続*と*同意*を選択します。
5. 教師のチャネル番号（1 ～ 16,000）を入力します。各クラスルームに固有の番号を選びます。
6. 希望する場合、欄をチェックして*詳細オプション*を設定します。これらオプションは、前述の「MSI を経由して LanSchool 7.6 スクリプトまたは大量設置」の項と同じです。また、これらオプションは教師が生徒になるケースと関連しています。
7. *「続行」をクリックします。*インストールロケーションは変更できません。LanSchool をシステムドライブに必ずインストールしてください。
8. *インストールをクリックします。*インストーラが、コンピュータの管理者証明書を尋ねてきます。ユーザー名とパスワードを入力して、*OK* をクリックします。
9. インストール成功後に*閉じる*をクリックします。

デフォルトでは、教師はチャネルを変更不可能な状態でインストールされています。教師にチャネル変更権や複数のチャネル閲覧を許可したい場合、*lanschool_teacher.dmg* 内のユーティリティフォルダ内にある EnableChannelSelect ユーティリティを動作させなければなりません。

生徒のコンピュータへのソフトウェアのインストールは次の手順で行います：

1. Mac 生徒用コンピュータへ *lanschool_student.dmg* をコピーします。
2. *lanschool_student.dmg* をダブルクリックします。
3. *lanschool_student.pkg* をダブルクリックします。
4. ソフトウェアライセンス契約のインストールウィザードに従います。ライセンスの条件を読んだら、*継続*と*同意*を選択します。
5. 欄をチェックして生徒を望むように設定してください。利用可能なオプションのリストと説明については、「MSI を経由して LanSchool 7.6 スクリプトと大量設置」の項を読み返してください。
6. *続行をクリック。*インストールロケーションは変更できません。LanSchool をシステムドライブに必ずインストールしてください。

7. *インストールをクリックします。*インストーラが、コンピュータの管理者証明書を尋ねてきます。ユーザー名とパスワードを入力して、*OK* をクリックします。
8. インストール成功後に*閉じる*をクリックします。

注意：ファイルボールトがオンになっているユーザーアカウントからインストールされた場合、Mac 生徒用インストールは適切に動作しません。これは Apple のバグで、「Insert the <username> disk(ユーザー名ディスクを挿入してください)」と表示されます。

自動インストール

lanschool_teacher.pkg および *lanschool_student.pkg* はデスクトップ管理アプリケーションを使って , カスタマイズしてインストールすることもできます。

このパッケージのカスタマイズは、次の手順に従います：

1. *lanschool_teacher.dmg* または *lanschool_student.dmg*. をダブルクリックします。
2. 「*カスタムパッケージを作成*」をダブルクリックします。
3. インストール ウィザードに従い適切なオプションを選択します。
4. パッケージに名前を付け保存します。

この作業により、選択した設定でインストールされたカスタムパッケージが作成されます。

注意：Mac OS X 10.4 Tiger は、空白の画面が機能するよう許可するようサポートを API に対して行いません。また、ログイン時の「教師を表示」もサポートしません。

LanSchool 7.6 を Mac にインストールする

LanSchool ソフトウェアが許可を受けずに削除されることを防ぐために、インストールは改ざん不可になっています。これを行うには、LanSchool はソフトウェアをアンインストールするために、トグルスイッチのような役割を果たすオリジナルのインストールパッケージを必要とします。製品インストール時に使ったものと同じインストールプログラムを再度動作させるファイルを選択するだけです。これによりソフトウェアは削除されます。ファイルを選択し再作動させると、ソフトウェアは再インストールされます。

ダウンロードパッケージが手元にない場合、カスタマーポータル内のカスタマーアカウントから再度ダウンロードします。ご自分のアカウントにアクセスできない場合、テクニカルサポートにお問い合わせいただくと .msi ファイルの写しを提供いたします。インストールされているソフトウェアの完全なバージョンを知っている必要があります。これは、ソフトウェアの About メニューアイテムで見つけることができます。このバージョンは、7.6.0.53 に似ています。

「マイ コンピュータ」で、LanSchool 製品をダウンロードした場所に行き、*teacher.msi* をダブルクリックします。

1. 教師用コンピュータを使っている場合、*lanschool_teacher.dmg*. を動作させます。
2. 生徒用コンピュータを使っている場合、*lanschool_student.dmg* を動作させます。
3. *インストール*をクリックします。
4. *はい、アンインストールします*をクリックします。
5. 管理者ユーザー名とパスワードをタイプしてください。
6. *OK* をクリック。

LanSchool 7.6 を iOS デバイスにインストール

LanSchool は、Apple iPad、iPhone または iPod 用に生徒と教師向け無料アシスタンスを提供しています。以下の能力は、現在の LanSchool v7.5 および以降の環境でしか動作しません。

インストール

生徒インストールは、Apple の iTunes App Store から簡単にダウンロードできます。教師アシスタントインストールは 2 つのステップで行われます。

1. デバイスからは、LanSchool 教師アシスタントを App Store からダウンロード、インストールします。
2. Windows または Mac コンピュータのいずれかに動作している LanSchool 教師用コンソールの教師アシスタントのペア。

教師アシスタントと教師用コンソールをペアにする

教師アシスタントと教師用コンソールをペアすることは、以下の理由できわめて重要です :

- 教師アシスタントは、最初に教師用コンソールとペアにされていないと生徒を見つけることができません。
- 生徒インターネットアクセスを制限、またはアプリケーション使用を制限する設定は、教師用コンソールから読めます。

iOS 教師アシスタントと教師用コンソールをペアにする

1. LanSchool 教師用コンソールを Windows または Mac コンピュータ上に起動します。
2. 管理者メニューから、「教師アシスタントを管理する」を選択します。iOS デバイスを承認するウィンドウが起動されます。
3. iOS デバイスを組織のワイヤレスネットワークに接続します。
4. iOS デバイス上の教師アイコンをクリックして、教師アシスタントを起動します。
5. iOS デバイスがネットワーク上で利用できる教師用コンピュータを見つけ、リストします。適切な教師用コンピュータをリストから選択します。
6. iOS デバイス上にパスコードが生成され、表示されます。
7. PC または Mac の「教師アシスタントを管理する」ダイアログ内に I、iOS デバイスがウィンドウ内に表示されます。デバイスを選択し、「承諾する」をクリックします。
8. iOS デバイス上で生成されたパスコードをタイプし、OK をクリックしてください。

教師アシスタントが教師用コンソールとペアになると、アシスタント起動時には常に自動的にペアが発生します。iOS デバイスと教師のペアを中止するには、「教師アシスタント管理」メニュー内の iOS デバイスを選択肢、「削除」をクリックします。

ペア作成が完了すると、教師アシスタントは教師チャネル上の全生徒用コンピュータを見つけ、適切な機能設定をダウンロードします。この時点で、教師アシスタントは生徒用コンソールが閉じられていても機能を行うことができます。しかし、教師アシスタントのアプリケーションが閉じられていると、教師アシスタントのアプリケーションを再開する前に、Mac または PC で教師用コンソールを開始しなければなりません。

機能

教師用コンソールとペアになっている教師アシスタントのアプリケーションは、以下の機能を行うことができます：

- 生徒用コンピュータを見つける
- 生徒画面のサムネイルを表示する
- 画面をブランクにする
- 投票する
- ウェブを制限する
- アプリケーションを制限する
- メッセージの送信
- 詳細を表示する
    - •最後に使われたアプリケーション
    - •最後に訪問されたウェブサイト
    - •電池情報
- 生徒の質問
- テスト送信

生徒用コンピュータで機能を実行するには、ひとりの生徒を選択するか、全生徒を選択するかのどちらかができます。学生を選択するには、サムネイルに触るだけです。選択を解除するには、再びサムネイルに触ります。サムネイルが直接選択されない場合、全選択が実行されます。

適切なサムネイルを選択したら、有効化したい機能のアイコンに触ってください。この機能をオフにするには、機能のアイコンにもう一度触ってください。ある機能を設定したい場合には、数秒間機能アイコンをタッチし続けると設定ダイアログが表示されます。

画面をブランクにする

ブランクの画面メッセージは教師用コンソールから引き出されません。しかし、メッセージは、「設定」メニューまたはメッセージ選択欄を数秒間タッチし続けるかのいずれかの方法で教師アシスタントから修正、選択することができます。

投票する

◯ × 式、多項選択または口頭による質問を生徒に送ることができます。生徒の結果は教師アシスタントにリアルタイムで表示されます。

メッセージの送信

カスタマイズのメッセージを、1 名、複数、または生徒全員に送信することができます。生徒を選択するか、生徒を選択せずに「メッセージ送信」アイコンに触り、「全員に実行する」を使用します。メッセージを入力するか、現存のメッセージを選択し、「送信」ボタンを押します。

アプリケーションを制限する

教師アシスタントが教師用コンソールとペアになっているとき、現在のアプリケーション制限設定が教師アシスタントにダウンロードされます。選択される生徒へのアプリケーションを制限するには、アプリケーション制限のアイコンに触ってください。アプリケーション制限のアイコンはサムネイルに表示されます。アプリケーション制限を停止するには、アプリケーション制限のアイコンに再度触れてください。

ウェブ制限

教師アシスタントが教師用コンソールとペアになっているとき、現在のウェブ制限設定が教師アシスタントにダウンロードされます。選択される生徒へのウェブを制限するには、ウェブ制限のアイコンに触ってください。ウェブ制限のアイコンはサムネイルに表示されます。ウェブ制限を停止するには、ウェブ制限のアイコンに再度触れてください。

詳細を表示する

電池情報、最後に使ったアプリケーションや最後に訪問したウェブサイトのような生徒についての詳細を表示するには、サムネイルを 2 回軽く叩いてください。

生徒の質問

生徒は、自分のコンピュータ上の LanSchool アイコンをクリックし、教師への質問をタイプすることにより、電子的に挙手することができます。その質問は教師アシスタント上に表示されます。

LanSchool 7.6 を Windows にインストールする

LanSchool 7.6 の新しいものとして、32 または 64 ビットの Ubuntu Students、v10 または 11.x をサポートしています。現在、FireFox 3.x or 4.x を動作させているクラッシックモード (Unity は現在のところサポートされていません) 内のデスクトップにてサポートされています。将来のリリースでは、Windows と Mac の生徒に機能的同等性を提供する、その他 Linux、デスクトップとブラウザへの分配への追加サポートが計画されています。

インストール

ソフトウェアをインストールするには、生徒用コンピュータに製品ダウンロードロケーションにある student-Ubuntu.run ファイルを Linux フォルダからコピーします。

1. ファイルを右クリックし、許可タブを選択し、ファイルが実行可能に設定されていることを確認します。
2. ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。
3. *動作*を選択してインストールを開始します。
4. 管理者パスワードを入力し、*OK* を選択して続行します。
5. Lanschool ウィザードが起動されます。*次*へをクリックして続行します。
6. *承諾する ...* を選択し、*次*へで続行します。
7. *終了*をクリックしてインストールを終了します。

代わりに、コマンドを使って「ターミナル」ウィンドウからインストールを動作することもできます。

/bin/bash student-Ubuntu.run

アップグレードとアンインストール

生徒をアップグレードまたはアンインストールするには、同じインストールファイルをダブルクリックして再度動作させます。管理者パスワード入力後、以下を行いたいか質問される画面が表示されます：

- アンインストールして終了
- 現在の生徒をアンインストールしてアップグレード
- 現在の生徒上に上書きして再インストール (推奨)

望ましい選択を行うと、後はウィザードがプロセスを完了します。

機能

このバージョンの生徒インストールでは、Windows または Mac 教師は以下ができます :

- 教師を表示するを動作 (全画面)
- 生徒の画面を生徒に表示
- 生徒の画面を表示

- 生徒用コンピュータをリモートコントロール
- 生徒の画面をブランクにする / ブランク解除する
- 生徒に投票するように頼む
- メッセージを送信するか質問する
- ウェブアクセス制限
- アプリケーション使用制限
- インタンーネット履歴表示
- チャネル変更
- Linux 生徒をリモートで更新

このバージョンのソフトウェアを搭載している生徒は、「質問する」や「投票」依頼に回答することができます。

注意：生徒チャネルは、/opt/lanschool/etc/lanschool.conf ファイルを修正すると、インストール時に特定することができます。入力 “ チャネル =1” を望むように変更してください。教師はまた、生徒を発見後にチャネル変更することもできます。このリリースでは生徒はチャネルを変更する能力を持っていません。

追加の情報で、生徒デーモンが適切に動作しているか確認するか、開始か停止を行っているかを確認します。

生徒を管理者でなくすには：

「sudo 生徒停止」

生徒を管理者でなくすには：

「sudo 生徒開始」

生徒が現在動作中か見るには：

「生徒ステータス」

インストールを有効化し、いずれかの生徒プロセスが動作していない場合には報告するダイナミックなスクリプトがインストール内に含まれています。使用するには、

“/opt/student/scripts/student_diagnostics.sh” を動作

LanSchool v7.6 を Vernier LabQuest デバイスにインストール

LanSchool 7.6 内で新しく、Vernier Software and Technology 社 LabQuest サイエンスデバイスをサポートします。

インストール

1. LanSchoolVernier LabQuest の学生をインストールするには、まず .lqa ファイルを LanSchool インストールダウンロードから (\Vernier LabQuest\lanschool-student-labquest_arm.lqa) SD カードか USB サムドライブのいずれかのルートにコピーします。ドライブのルートに他の .lqa ファイルがコピーされないように注意してください。
2. インストールしたい動作中の LabQuest デバイスに SD カードを挿入するか、USB ドライブをプラグインします。LabQuest デバイスは自動的にファイルシステムのルートにある .lqa ファイルを検知し、LanSchool 生徒インストーラを起動します。
3. 画面の指示に従って、生徒をインストールします。
4. インストール成功後、X サーバ（グラフィック表示）を更新します。画面が点滅し、リロードされるのが見えます。LabQuest アプリケーションは再開し、ツールバーに LanSchool アイコンが表示されます。生徒デーモンはデバイス再起動時に毎回自動的に再開されます。

アップグレードとアンインストール

LanSchool 生徒がすでにデバイスにインストールされている場合、アップグレードを希望するか画面で質問されます。アップグレードするには “Yes” を軽く叩き、インストールをアンインストールまたはキャンセルしたい場合には “No” を軽く叩きます。

注意：あなたの Vernier LabQuest デバイスの ＩＰ アドレスを知っておくと便利でしょう。デバイスでこれを見るには、[Home]-> コントロールパネル -> ネットワーク へと進むと、デバイスの IP アドレスを記載します。

また、Vernier へのデフォルトのログインは :

User = root

Password = vernier

機能

LabQuest デバイスは、Windows または Mac 教師にアクセスされているときに、これら機能をサポートします :

- 生徒の画面を表示
- 生徒用コンピュータをリモートコントロール
- 生徒の画面をブランクにする / ブランク解除する
- 生徒に投票するように頼む
- メッセージの送信
- 質問する

リモートで更新 LanSchool 7.6

LanSchool 生徒の初期インストールとそれら教師用コンソールにあるコンピュータの発見後、生徒用コンピュータは「リモート更新」機能を使って異なる設定で更新または再設定されることができます。

選択した生徒の LanSchool を更新

LanSchool 顧客により発見・報告されるどんな欠陥や問題にも、頻繁なメンテナンスリリースで迅速に対応することを目指します。さらに、製品リリースにはこのような大きな新機能が追加されています。LanSchool 生徒のバージョンがデバイスにインストールされると、その時点から 1 つの中央「管理者」表示から、または個々の教師用コンソール表示から新バージョンを実行することが可能です。

現在インストールされているバージョンから最新リリースへ更新するために、リストから個々の生徒を選択、または生徒の複数グループを選択することができます。これを遂行するには、特定の生徒用インストールファイルをダウンロードされた場所から教師がインストールされている場所にコピーするだけです。

注意：生徒用コンピュータ上でディープフリーズまたは同様の「ロックダウン」ソフトウェアを使用している場合は、新しいソフトウェアを生徒用コンピュータにインストールできるようにするため、このアップデート手順中はそれらを無効化、または「解凍」しなければなりません。

生徒インストールファイル

ダウンロードの場所から適切な生徒ファイルをコピーし、教師用コンソールがダウンロードされている場所に移します。生徒ファイルを特定するには：

Windows 教師から実行された Windows 生徒用 : student.msi

Mac 教師から実行された Windows 生徒用 : pcupdate.zip

Windows 教師から実行された Mac 生徒用 : mupdate.zip

Mac 教師から実行された Mac 生徒用 : lanschool_student.dmg

いずれの教師から実施された Ubuntu 生徒にも : student-Ubuntu.run

Windows 生徒上の LanSchool をアップデート

1. LanSchool の教師用コンピュータへの最新バージョンのインストールから開始します (「LanSchool 教師更新」または「LanSchool 7.6 を Windows にインストール」の項を参照してください。)
2. Windows 教師から更新する場合には、ダウンロードロケーション中の *student.msi* ファイルを Windows フォルダから教師用コンピュータ上の LanSchool インストールフォルダにコピーします (デフォルトのフォルダは Windows 上の C:\Program Files\LanSchool です。)

Mac 教師から更新する場合には、ダウンロードロケーション中の *pcupdate.zip* ファイルを Mac ディレクトリから教師用コンピュータ上の LanSchool インストールフォルダにコピーします (デフォルトのフォルダは Mac 上の Applications\LanSchool です。)

3. LanSchool コンソール内で、アップデートしたいコンピュータを選択します。
4. *管理者*をクリックし、次に、*選択した生徒の LanSchool をアップデート*メニューオプションをクリックします。
5. 選択された生徒の証明書を提供してください。同一の管理者証明書では、生徒の全グループがアクセス可能とならなければなりません。

この手順は、選択した各生徒あたり数秒かかります。終了したら、*表示*、続いて*更新（F5）*メニューアイテムを押して、生徒用コンピュータ上に新しくインストールしたバージョンを確認する必要がある場合もあります。

選択した生徒で*をアップデート LanSchool メニュー*を使って生徒を*展開すると*、生徒に使われた設定は、教師のインストール中に設定した*詳細オプション*と同様のものとなります。

注意：この方法は、生徒用コンピュータで v6.5 以降の生徒が動作している場合のみ有効です。
この方法は、v6.2 の生徒を v7.6 の生徒にアップグレードするためには使用できません。v6 から v7.6 へのアップグレードには、ローカルデバイス上でのソフトウェアの再インストールが必要です。

Mac 上の LanSchool をアップデート

1. まず、LanSchool の最新バージョンを教師用コンピュータに再インストールします（上述の「LanSchool のアップデート」の項を参照）。
2. 次に、*mupdate.zip* を Mac ディレクトリから教師用コンピュータ上の LanSchool インストール フォルダにコピーします（デフォルトフォルダは、Windows では C:\Program Files\LanSchool、Mac では Applications\LanSchool です）。
3. LanSchool コンソール内で、アップデートしたいコンピュータを選択します。
4. *管理者*をクリックし、次に、*選択した生徒の LanSchool をアップデート*メニューオプションをクリックします。
5. 選択された生徒の証明書を提供してください。同一の管理者証明書では、生徒の全グループがアクセス可能とならなければなりません。

この手順は、選択した各生徒あたり数秒かかります。終了したら、*表示*、続いて*更新*メニューアイテムを押して、生徒用コンピュータ上に新しくインストールしたバージョンを確認する必要があることもあります。

Mac 生徒はこのプロセス後にログアウトされ、完了後に再度ログインされなければなりません。

選択した生徒で LanSchool をアップデートメニューを使って生徒を展開すると、生徒に使われた設定は、教師のインストール中に設定した*詳細オプション*と同様のものとなります。

Ubuntu 上の LanSchool をアップデート

1. まず、LanSchool の最新バージョンを教師用コンピュータに再インストールします（上述の「LanSchool の更新」の項を参照）。
2. 次に、*student-Ubuntu.run* を Linux ディレクトリから教師用コンピュータ上の LanSchool インストール フォルダにコピーします（デフォルトフォルダは、Windows では C:\Program Files\LanSchool、Mac では Applications\LanSchool です）。
3. LanSchool コンソール内で、アップデートしたいコンピュータを選択します。
4. *管理者*をクリックし、次に、*選択した生徒の LanSchool をアップデート*メニューオプションをクリックします。
5. 選択された生徒の証明書を提供してください。同一の管理者証明書では、生徒の全グループがアクセス可能とならなければなりません。

この手順は、選択した各生徒あたり数秒かかります。終了したら、*表示*、続いて*更新*メニューアイテムを押して、生徒用コンピュータ上に新しくインストールしたバージョンを確認する必要があることもあります。

選択した生徒で LanSchool をアップデートメニューを使って生徒を展開すると、生徒に使われた設定は、教師のインストール中に設定した*詳細オプション*と同様のものとなります。

生徒用コンピュータ上でディープフリーズまたは同様の「ロックダウン」ソフトウェアを使用している場合は、新しいソフトウェアを生徒用コンピュータにインストールできるようにするため、このアップデート手順中はそれらを無効化しなければなりません。

注意：マシンにアクセスするアップデートが必要な各ファイルと証明書がグループ内の各デバイスと同じ場合、インストールされる生徒の混合プラットフォームをアップデートするよう選択する場合があります。優れた IT プラクティスとしては、マシンのサブセットをいちどずつ行うことを推奨します。

また、これは生徒用コンピュータを 30 日デモバージョンから最新の販売バージョンに更新するのにも最適な方法です。

LanSchool 7.6 をキオスクモードで実行

LanSchool 7.6 では、Windows 上で 教師用コンソールをキオスクモードで実行できます。このモードにより LanSchool がコンソールが設定されますので、最小化または終了することはできません。

LanSchool コンソールをキオスクモードで実行するためには、次の指示に従います。

1. 教師用コンピュータ上 LanSchool *teacher.msi* ファイル
2. *regedit.exe*. を開く
3. *HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Run*. をブラウズする
4. *KiOsK* を LanSchool Teacher Key C:\Program Files\LanSchool\Teacher.exe KiOsK に追加する
5. *OK* をクリック

次回システムを再起動すると、LanSchool 教師用コンソールはキオスクモードで動作します。

LanSchool 構成の優先設定

LanSchool の設定は簡単です。7 つのタブが付いたダイアログ 1 つですべての優先設定が制御されています。ほとんどの優先設定は教師用コンピュータ上でのこれらの設定を変更することで制御されています。

構成設定には次のタブが含まれます：

- 教師
- 生徒
- ウェブ制限
- アプリケーション制限
- キーストローク警告
- ドライブ制限
- ネットワーク

教師の優先設定

教師タブでは、次のような優先設定を設定できます：

教師画面の表示

全画面

生徒の画面に教師の画面が表示されます。「教師を表示」中、生徒はマウスやキーボードを制御することができません。

ウィンドウ表示

各生徒の画面のウィンドウに教師のブロードキャスト画面が表示されます。この場合、生徒は教師に「従う」ことができ、教師のブロードキャストセッションの間自分達のコンピュータを使うことができます。

色減少

スクリーンブロードキャスト、リモートコントロールと「生徒を表示」を行っている間、教師が色の数を制限し、教師が使用した背景イメージを抑えることができます。この両方を行うことで性能が向上し、ネットワークバンド幅要件を抑えることができます。

デュアルモニターの表示

教師がデュアルモニターを表示でき、デュアルモニターを使用中に生徒のサムネイルに戻ることができます。

画面メッセージを無効にする

このオプションを使うと、教師は生徒の画面がブランクの時に生徒の画面上に表示するテキストを指定できるようになります。テキストメッセージをドロップダウンリストに入力し、*適用*を選択します。最新のメッセージ 10 通分が保存されていますので、画面がブランクになっていても迅速に選択できます。これらメッセージは、コンソールツールバー上のブランク画面ボタンから閲覧することができます。そのボタンから、メッセージを閲覧、選択または削除できます。

システムトレイ通知

このオプションは、コンソールが最小化されている教師がシステムトレイ内の LanSchool アイコンを表示したり隠したりすることを可能にします。

サウンド

チェックが入っていれば、教師画面が生徒に表示されている時に LanSchool サウンド効果が再生されます。

生徒の優先設定

生徒タブでは次のような優先設定を設定できます：

リモートコントロール

生徒のキーボードとマウスを使用不可にする

このオプションで、教師は生徒用コンピュータをリモートコントロールしている間、生徒のインプットを「ロックアウト」できます。

生徒のサムネイル

実行中のアプリケーションのアイコンをサムネイルに表示

サムネイルビュー内で、このオプションにより、左手上部隅に生徒が現在実行しているアプリケーションのアイコンが表示されます。

最新訪問したウェブサイトのアイコンをサムネイルに表示

サムネイルビュー内で、このオプションにより、左手上部隅に生徒が現在最近訪問したウェブサイトを表すアイコンが表示されます。

利用可能時に（ディレクトリから）生徒名を表示する

もしあれば、サムネイル下に生徒ディレクトリ名が表示されます。

注意：生徒名とコンピュータ名の両方が、大きなサムネイル媒体上に自動的に表示されます。小さいサムネイルで表示する単一オプションを選択することもできます。

タスクマネージャ / アクティビティ監視

生徒用コンピュータ上のタスクマネージャまたはアクティビティ監視を無効にする

生徒の LanSchool フォルダ

生徒フォルダ

このオプションを使うと、生徒用コンピュータで LanSchool フォルダのパスを指定することができます。このパスは、ローカルドライブでもネットワークドライブでもかまいません。

ウェブアクセス時に生徒に通知を表示

「ウェブを制限」が有効な場合にこのオプションを使うと、ウェブサイトにアクセスしようとした生徒に通知を表示する機能のオン・オフを切り替えられます。

ウェブ制限

ウェブ制限タブでは、ウェブを制限するため次のような優先設定を設定できます。

全てをブロックする

このオプションを使うと、すべてのウェブブラウジング、インスタントメッセージおよび電子メールプログラムをブロックします。

許可されているウェブサイト

このオプションは、ウェブ制限がオンになっているときにあなたがウェブサイトのリストにタイプできるようにするものです。ウェブサイトのリストは http:// or the www. prefix を含まなくてもかまいません。いちどにひとつのサイトを入力し、次に改行 (enter) キーを押します。ウェブサイトのリストは、読み込みと保存ボタンを使って保存・読み込みを実行します。ファイルは、.lsu のファイルとして保存されます。サンプルリストはこのようになります：

www.cnn.com

nationalgeographic.com

*.microsoft.com

次のウェブサイトをブロック

このオプションを使って、「ウェブを制限」をオンにした時にブロックするウェブサイトのリストをタイプ入力することができます。ウェブサイトのリストは http:// or the www. prefix を含まなくてもかまいません。いちどにひとつのサイトを入力し、次に改行 (enter) キーを押します。ウェブサイトのリストは、読み込みと保存ボタンを使って保存・読み込みを実行します。ファイルは、お望みの場所で .lsu ファイルとして保存されます。

* 注意：許可済みウェブサイトとブロック済みウェブサイトの両方において、ウェブサイトを指定するために “*” や “?” をワイルドカードとして使用することができます。Windows 上のウェブ制限は、32 ビットインターネットエクスプローラー (6.x-9)、Firefox (3.x or 4.x) と Chrome で起こります。Mac 上のウェブ制限は、Safari と Firefox(3.x or 4.x) で起こります。ウェブ制限がオンになっている場合、64 ビットインターネットエクスプローラーが単純に Windows の起動をブロックされ、また Chrome が Mac 上でブロックされます。

プライベートおよび **IP** アドレスによるブラウジングを制限

生徒が 32 ビットインターネットエクスプローラーのインプライベートブラウジング機能を使用し、ドット付き 10 進法 (IP アドレス) インターネットアドレスを使用してウェブサイトをブラウジングするのを禁止します。

アプリケーション制限

アプリケーション制限タブを使うと、次のような優先設定を設定できます：

許可されているアプリケーション

アプリケーションの制限をオンにした時に、許可するアプリケーションのリストを指定する際に、このオプションを使用します。存在する場合、入力には適切なファイル拡張が含まれなければなりません。ウェブ制限同様、アプリケーションをいちどにひとつずつ入力し、各入力後、改行 (enter) キーを押してください。アプリケーションのリストは読み込みと保存ボタンを使って保存・読み込みできます。ファイルは .lsa ファイルとして保存されます。

アプリケーションは、直接タイプして、追加ボタンをクリックして、教師用コンピュータ上で有効なアプリケーションを選択して追加することもできますし、また、監視メニュー内の「生徒の実行中のプログラムを見る」をクリックして生徒用コンピュータからアプリケーションを加えることもできます。

アプリケーション表示名は、通常、Windows 内では .exe file ですが、アプリケーション制限ソフトウェアは実際にはファイルの内部名を使用します。デフォルト表示名と内部名は通常同じですが、非常に違っている場合もありますので、そのアプリケーションを制限する問題が発生するときには、実行可能なプロパティをチェックし、内部名を調べてください。Mac では、Finder 内に表示されているファイルの表示名を入力します。

アプリケーションをブロック

アプリケーションの制限をオンにした時に、ブロックするアプリケーションのリストを指定する際に、このオプションを使用します。

アプリケーションのリストは読み込みと保存ボタンを使って保存・読み込みできます。ファイルは .lsa ファイルとして保存されます。

アプリケーションは直接入力でき、追加ボタンをクリックして教師用コンピュータ上でアクティブアプリケーションを選択して追加するか、モニターメニューで「生徒の実行中プログラムを見る」をクリックして生徒のコンピュータからアプリケーションを追加して追加できます。

注意：Windows と Mac の両方で、作業システムにとって基本的なものであるため、制限のできないアプリケーションが存在します。たとえば、Windows のファイルエクスプローラーや Mac の Finder がこれに当たります。

キーストローク警告

キーストローク警告タブにより、禁止用語のリストを指定できます。生徒が禁止用語を入力すると、その生徒のサムネイルに黄色の警告アイコンが出て教師は通知を受けます。サムネイル上にマウスを移動させると、その生徒が入力した言葉が表示されます。

ドライブ制限

ドライブ制限タブを使うと、ドライブ制限ボタンをクリックした際にブロックされるドライブのタイプを設定できます。LanSchool 7.6 では、ほとんどの生徒の USB ドライブと CD/DVD ドライブをブロックできます。しかし、これはシンクライアント、Linux または LabQuest の生徒にはサポートされていません。

ネットワーク

ネットワークタブでは、次のような優先設定を設定できます：

データ転送

IP ブロードキャスト

教師が全生徒のコンピュータに連絡する必要がある場合、このデフォルトオプションはブロードキャストパケットを使用します。このオプションは、生徒が教師と同じサブネットにあることが前提です。

ブロードキャストパケットはサブネットまたはその他セグメントをクロスしないことに注意してください。　サブネットをクロスする必要がある場合、IP マルチキャストか IP ディレクテッドブロードキャストのいずれかをお薦めします。

IP マルチキャスト

TCP/IP マルチキャスト経由で LanSchool データを生徒に転送します。　マルチキャストを利用すれば、ネットワーキングのハードウェアは LanSchool トラフィックを LanSchool コンピュータに対してローカルに保持することができます。ネットワークハードウェアがこのオプションをサポートする場合、使用を強くお薦めします。

IP ディレクテッドブロードキャスト

教師が数人または全員の生徒とは異なる IP サブネット上にいる場合、マルチキャストは利用できないので、このオプションが使用できます。適切なアドレスを計算するためには、ダウンロードした LanSchool のユーティリティフォルダ内にある DirBCastAddr.exe ユーティリティを使用してください。

注意：ネットワーク上でマルチキャストおよび / またはディレクテッドブロードキャストを作動させるには、ルーター / スイッチの追加設定が必要な場合もあります。お使いのスイッチ / ルーターについての詳細はハードウェアの取扱説明書をご覧ください。これらオプションに関するさらなる詳細は、「VLAN 経由で LanSchool 7.6 をインストール」の項目を参照してください。

複数のネットワークアダプタ

ネットワークインターフェイスカードを指定

コンピュータの中には実際に 1 つ以上のネットワークインターフェイスカード (NIC) および / または複数の IP アドレス（すなわちルーター）をもつものもあります。これらはバーチャルまたはワイヤレスネットワークのアダプタであることもしばしばあります。

LanSchool は「最初の」NIC を常に使用しますが、それが望ましい NIC またはネットワークであるとは限りません。このチェックボックスを使えば、どの NIC を使用するかを指定できます。

教師用コンピュータに複数のリアルまたはバーチャルネットワークアダプタがある場合には、ドロップダウンボックスから LanSchool が使用するアダプタを指定してください。

教師チャネル

チャネル番号

自分に割り当てられているチャネル番号を教師が変更できないよう、この機能は通常使用不可にされています。教師にチャネルの変更を許可するか、複数チャネルを閲覧することを許可したい場合には、望まれる各教師用コンピュータで、インストール後にこの機能が有効化されなければなりません。製品ダウンロード内のユーティリティディレクトリで利用できる、*EnableChannelSelect.exe* と呼ばれるユーティリティがあります。ユーティリティを教師用コンピュータにコピーしダウンクリックすると、この機能が有効化されます。

EnableChannelSelect.exe のコマンドラインパラメータは次の通りです：

- *EnableChannelSelect.exe* TRUE
- *EnableChannelSelect.exe* FALSE

* 注意：また、*EnableChannelSelect.exe* を使えば、教師または管理者は生徒のチャネルをリモートで変更できます。この機能へのアクセスは、生徒を 1 名、または複数選択し、*管理者*をクリックし、*生徒チャネルを変更します*をクリックします ...

管理者チャネル

チャネル “0” (ゼロ) は管理者のチャネルで、全割り当てチャネルを監視し、全生徒用コンピュータがインストールされているか見る能力を持ちます。

複数のチャネルを使用する

この機能を使えば、教師は 16000 のチャネルを任意にグループ化できます。各チャネルはカンマで区切られている必要があります。例：1,3,4 と入力すると、教師用コンソールを設定し、チャネル 1,3,4 にいる全生徒を同時に監視できます。

チャネルの変更

生徒用コンピュータのチャネルを変更する必要がある場合、このタスクを完了するにはいくつか方法があります。

- 製品をアンインストールするかインストールし直して、インストールダイアログ内の新しいチャネルを選択します。
- Windows では、ユーティリティ ディレクトリにある setchannel.exe を実行します。
- LanSchool コンソールからチャネルを変更します。*EnableChannelSelect.exe* を実行していれば、コンソールから生徒チャネルを変更することができます。
    1. チャネルを変更したい生徒を選択します。
    2. *管理者*をクリックして、*生徒チャネルを変更*をクリック ...
    3. 新しいチャネルを入力する
    4. OK をクリック
- アクティブディレクトリを使用し、student.adm でチャネルを設定します

注意：LanSchool は Ghost のようなイメージツールとうまく協調できます。イメージツールを使用する際には、特定のクラスルームで全てのコンピュータに対するチャネルの変更の仕方に主に注意すべきでしょう。大組織の場合では、アクティブディレクトリか、ログインスクリプトを介した *setchannel.exe* を使用する方法を推奨します。小さな組織の場合は、単純に、教師用コンソールを使ってチャネルを変更する方が簡単でしょう。

LanSchool 教師のアップデート

LanSchool を新製品バージョンへ更新するには、教師のインストールファイルを再び実行するだけです。新規バージョンをインストールする前に旧バージョンをアンインストールすることなしに、自動的に LanSchool ファイルを新規バージョンに更新します。ただし、古いバージョンが v6.0 以前の場合、必須ではありませんがアンインストールした方がいいかもしれません。

LanSchool 生徒のアップデート

LanSchool ソフトウェアへの機能拡張は必要に応じてリリースされます。生徒用コンピュータを最新バージョンの LanSchool にアップデートしたい場合、自動更新できる方法があります。ソフトウェアをすべての生徒用コンピュータに手動で再インストールする必要はもうありません。さらなる詳細については、本説明書で前述した「LanSchool 7.6 リモート更新」の項を参照してください。

LanSchool セキュリティ監視

LanSchool のような強力なツールでは、常に悪用される危険があります。生徒が不正コピーを探したり、教師ソフトウェアを読み込んでみたりしたい誘惑にかられ、クラスの進行を妨害してしまうこともあり得ます。

潜在的な悪用に対処するためには 3 つの方法があります。

1. 適切な行動についての学校の方針を設定し、その方針を監視、実行します。
2. LanSchool 7.6 をアクティブディレクトリ安全モードにインストールします。この場合、教師は生徒用コンピュータを管理するために「 LanSchool 教師」というドメイングループに属している必要があります。（推奨されるメソッド）
3. LanSchool 7.6 をパスワード安全モードでインストールします。これは、アクセスが許可される前に教師用と生徒用コンピュータの両方でパスワードが要求されるものです。

セキュリティ監視

セキュリティ監視は、LanSchool ダウンロードイメージ上のユーティリティフォルダでも利用できます。このアプリケーションはどの生徒 PC でも実行できるもので、LanSchool プログラムのインストール、アンインストールを含む LanSchool のアクティビティについてのログを記録します。

このユーティリティがあれば、大概、クラスルームの「適切な使用方針」を悪用した生徒を学校が素早く見つけることができます。このユーティリティについての詳しい説明は、同じフォルダ内の *LanSchool 7.6 Utilities.pdf* ファイルにあります。

*表示*それから*ステータスウィンドウ*を続けてクリックしても、教師はセキュリティ監視データにアクセスできます。アクションを実行次第、セキュリティメッセージが表示されます。

以前のバージョンでは、LanSchool のデモバージョンをダウンロードしてインストールした生徒たちが最大のセキュリティ問題を引き起こしました。*LanSchool v6.1* 以降、デモバージョンはリリース済のバージョンとの連携はありません。

NAL 環境内 LanSchool

NAL（ネットワークアプリケーションランチャー）は、Novell ZEN Works パッケージの一部です。NAL は生徒のデスクトップを制御するために使用可能で、管理者承認済みアプリケーションのみに生徒がアクセスできるようになっています。最も制限の高いモード（そしておそらく学校側にとって最も便利なモード）では、指定のアプリケーションのみが実行できます。

LanSchool 7.6 を NAL 環境でインストールする場合は、教師および生徒プログラムの両方とも付属の .msi ファイルを使って実行します。

教師用コンピュータ用の注意点：

教師用コンピュータも NAL によってロックダウンされている場合、教師にはシステムトレイがなく、LanSchool 教師アイコンをクリックして LanSchool を制御することができません。この場合、ホットキーシーケンス「 <Ctrl><Alt><L>」を使用して、LanSchool 教師のメニューを出すことができます。

ウェイクオン LAN 対応

リモートで生徒用コンピュータの「電源をオン」にするために、ウェイクオン LAN（WOL）テクノロジーが利用されることができます。この場合、生徒用コンピュータでは WOL が有効になるよう設定されている必要があります。この仕様のために必要な手順は、各コンピュータモデルによって異なります。通常、この手順をサポートするにはコンピュータに特別なハードウェアが必要で、有効にしなければならない BIOS スイッチがあります。実際に必要な手順を決定するにはコンピュータサプライヤーに相談するのが一番いいでしょう。

ダウンロードした LanSchool 7.6 のユーティリティフォルダ内には、WOL の準拠性を確認するためのユーティリティである *WakeUp.exe* が入っています。

このユーティリティは、指定したターゲットコンピュータに WOL の「ウェイクアップ」シグナルを送ります。このユーティリティを使用するためには、2 台のコンピュータが必要です：ターゲットコンピュータとコンソールコンピュータです。コンピュータは両方とも同じ IP サブネットに属している必要があります。また、ターゲットコンピュータの物理 MAC アドレスを決定する必要があります

コンピュータが Win9x コンピュータの場合、Window の *winipcfg.exe* ユーティリティを利用することもできます。そうでない場合、IPCONFIG /ALL コマンドをコンピュータプロンプトから動作させることができます。

ターゲットコンピュータの物理 MAC アドレスを入手したら、コンピュータをシャットダウンし、別のコンピュータ（つまりコンソール）上のコマンドプロンプトから、*WakeUp.exe* ユーティリティを実行します。　これにより、ターゲットコンピュータに WOL ウェイクアップパケットが送信されます。

ターゲットコンピュータ上で WOL が適正に設定されていれば、電源が入ります。電源が入らない場合、どんな追加手順をとるべきか確認するため、ハードウェアメーカーに確認しなければなりません。生徒用コンピュータ上で WOL が適切に設定されていない場合、LanSchool 教師用コンピュータは、そのコンピュータ上で WOL ウェイクアップを実行できません。

注意：また、Apple 版のウェイクオン LAN では、Mac はスリープから起きますが、オフになっている Mac の電源をオンにはならないのでご注意ください。

802.11 ワイヤレスサポート

LanSchool 7.6 には、ワイヤレスネットワーク上でコミュニケーション中であると教師用コンピュータが感知した際に自動的に選択される新しいワイヤレスプロトコルが含まれます。このプロトコルはワイヤレスネットワーク上の LanSchool の性能を著しく向上させます。

特殊なハードウェア要件

1. NIC ベンダーから入手可能な最新の NIC （ネットワークインターフェイスコネクター）ドライブを全てのコンピュータが使用しているか確認して下さい。「ワイヤレスの世界」は、10 年ほど前の LAN 環境と似ています。ワイヤレスネットワークドライバは、頻繁にアップデートされ、向上しています。
2. 業務用アクセスポイントを推奨します。アクセスポイントには、2 つの種類があります。家庭用と業務用です。最もわかりやすい違いは値段です。

- 「家庭用」アクセスポイントは一般的に 100 ドル（約 1 万円）程度で利用できます（例：LinkSys、DLink、Belkin など）。数台のコンピュータがインターネットリンクやプリンターを共有している家庭環境であれば、問題なく作動します。
- 「業務用」アクセスポイントは、同時に 50 台以上のクライアントをサポートすることが可能です。このタイプは一般に 300 ドル（約 3 万円）前後となります。生徒用コンピュータが 5 台以下でない限り、業務用のアクセスポイントが望ましいでしょう。（当社は Meru を推奨しますが、同様の製品は HP、Dell、Cisco （LinkSys 部門以外）、IBM なども生産しています。）このタイプは、LanSchool だけではなく、一般的に生徒用コンピュータにも利点があります。

3. 生徒用コンピュータの NIC 上の節電機能をオフにして下さい。弊社テストの結果、これにより LanSchool 性能もコンピュータの電池寿命も改善したことが分かっています。

インストール

全てのワイヤレスコンピュータは同じアクセスポイントに関連していると推測されます。これ以外では、インストールに関する特別な問題はありません。インストールガイドで説明の通り、教師用および生徒用コンピュータでインストールプログラムを実行してください。

性能

生徒用コンピュータにブロードキャストする教師画面のスピードは、ワイヤレスは、有線のネットワークでのパフォーマンスと比較した場合良好ではありません。これは変えられません。

有線のネットワークはブロードキャストおよびマルチキャストデータを 100Mbit/ 秒で送信します。802.11 ワイヤレスネットワークは、通常ブロードキャストおよびマルチキャストデータを毎秒 1M ビットにて送信します（有線スピードのわずか 1%ということです）。

ワイヤレスネットワークの帯域幅が大きく減少するだけでなく、802.11 アクセスポイントのアーキテクチャでは、しばしば、ブロードキャストおよびマルチキャストデータに対する著しい伝播遅延も発生します。これは 802.11 世界の節電アーキテクチャに原因があります。

しかし、LanSchool 教師表示機能はそれでも妥当な範囲で良好に動作します。複雑な教師画面でも、生徒画面に 3 秒以内に表示されるはずです。教師画面の変更は、シンプルであればほぼ同時に表示されるはずです。

ワイヤレスパフォーマンスの調整

状況に応じてパフォーマンスを向上させたいとお考えの場合は、お使いのアクセスポイント (AP) の構成を設定し直してみることもできます。これはベンダーによって違いがありますので、以下には一般的なガイドラインのみを示します。あなたの特定のアクセスポイントの変更の仕方を知るには、アクセスポイントの説明書を参照して下さい。

1. ビーコンインターバルをできるだけ低く落とします。一般的には、これは 50ms まで落とせます。
2. DTIM をゼロに設定します。これによりブロードキャストおよびマルチキャストパケットが各ビーコンパケット後に送信されるようになります。
3. ブロードキャストまたはマルチキャストのスピードを上げます。すべての AP で設定可能なわけではありません。

その他の LanSchool ユーティリティ

SecurityMonitor.exe

生徒が LanSchool の不正コピーを持っているのではないかと思われる場合、新しい LanSchool セキュリティ監視でその生徒を迅速に識別することができます。LanSchool セキュリティ監視は全トラフィックを記録し、そのデータをログファイル外で保存するオプションがあります。オプションボタンをクリックし、ログインタブを選択してファイル名をタイプしてください。

オプションボタンをチェックすると、生徒ごと、メッセージごとにフィルタすることもできるようになります。この新しいフィルタ能力は、不適切な使用を見つけるために、全メッセージに目を通すことができるようにするものです。不正に使用されている教師用コンソールが見つかれば。そのコンピュータを選択してリアルタイムで警告を表示することができます。この時点では、そのコンピュータからの全トラフィックに警告の記号が付けられます。

EnableChannelSelect.exe

デフォルトでは、教師優先設定ダイアログのネットワークの教師は教師チャネルエリアの設定をかえることはできません。この情報はインストール中に設定され、一般的には設定される必要はありません。しかし、教師がこれら設定を変更する必要がないとき、教師用コンピュータでユーティリティを作動させることにより、教師は自分のチャネル、グループおよびリモート生徒チャネルを更新することができます。ユーティリティは、ローカル管理者権限で作動させなければなりません。これらの権限を無効にしなければならないとき、このユーティリティを「偽」コマンドラインオプションで作動させることができます。

DisableDataTransmission.exe

デフォルトでは、教師は教師優先設定ダイアログのネットワークタブのデータ伝送エリア内の設定をかえることができます。教師にデータ伝送の設定を変更させたくない場合には、このユーティリティを教師用コンピュータ上に動作させ、データ伝送の欄がグレーで表示され、無効化されるようにすることができます。

DisableDataTransmission.exe FALSE を作動させることにより、デフォルトに戻すことができます。

DirBCastAddr.exe

教師優先権を設定時に、ネットワークタブは最大 3 個の異なる「IP ディレクテッドブロードキャスト」アドレスを許可します。IP ディレクテッドブロードキャストは特別なアドレスで、(適切に形成されている場合) 目的地のサブネットに到着するまであなたのネットワークを単一のディレクテッド UDP パケットに変換します。目的地のサブネットを検索時に、ルーターはパケットを標準的な UDP ブロードキャストパケットに転換します。

IP ディレクテッドブロードキャストが作動するためには、あなたのルーターは IP ディレクテッドブロードキャストパケットを転送するよう設定されていなければならず (時として、ルーターはこれらを「UDP ディレクテッドブロードキャスト」と称します)、パケットのアドレスが適切に形成されていなければなりません。このユーティリティは、後ほど役に立ちます。その生徒のサブネットマスクとともに、ターゲットサブネット上のいずれかの生徒用コンピュータの IP アドレスを入力します。両方のアドレスを入力したら、「計算」ボタンをクリックします。その結果出たアドレスを、教師優先設定ダイアログ .LSeriesLocation.exe のネットワークタブのデータ伝送エリア内のサブネットエントリー内にコピーします。

SetChannel.exe

教師チャネルは一般的にインストール中に設定されます。LanSchool ソフトウェアは、生徒または教師用コンピュータ上のローカル教師チャネルを更新するために、常に再インストールすることができます。このユーティリティはまた、ローカル教師チャネルの更新のためにも使われます。ローカルの管理者の権限で動作されなければなりません。教師用コンピュータでは、チャネルをグループにまとめるのにも使われます。コンソールアプリケーションです。全パラメータは、コマンドラインを通過します。新規教師チャネルは、0 から 16000 までの番号でなければなりません (チャネル 0 は生徒用コンピュータでは実際には使われないことにご注意ください。) マシンが教師用コンピュータである場合、括弧 { } 内でコンマ (,) でチャネルを区切ってチャネルグループを特定することができます。(例 {1,4,63})

SetDataTrans.exe

これは、IP ブロードキャスト、IP マルチキャストと IP ディレクテッドブロードキャスト間の教師用コンピュータのベースデータ伝送タイプをかえるものです。コンソールアプリケーションとして、パラメータはコマンドラインを通過します。「ブロードキャスト」、「マルチキャスト」または「ディレクテッド :w.x.y.z,w1.x1.y1.z1,...」です。IP ディレクテッドブロードキャスト向けには、最大 4 のドット付き 10 進法 IP ディレクテッドブロードキャストアドレスを指定できます。DirBCastAddr.exe ユーティリティを使って、これらアドレスを適切に形成することができます。

StudentDiagnostics.exe

これは、LanSchool テクニカルサポートの人員によって使われる、診断ユーティリティです。一般的に、ファイヤーウォールとルーターに関するネットワーク接続問題を検知するために使われます。

StudPopUp.exe

生徒または教師用コンピュータがシステムトレイを持たない場合 (システムトレイをグループポリシーから、または Novell の NetWare ネットワークアプリケーションランチャーから削除することは可能)、ローカル LanSchool メニューにアクセスすること方法がまったくなくなります。このアプリケーションを動作させると、ローカル LanSchool メニューが表示されます。

SwitchToTeacher.exe

教師用コンソールに生徒に機能をスイッチさせるオプションがあるとき、生徒用マシンに教師用コンピュータの機能をスイッチさせる簡単な方法はありません。このユーティリティはそのオプションを提供するものです。これを行うには、まず教師ソフトウェアの生徒用コンピュータ上へのインストールを終了させ、次に生徒用ソフトウェアへ上書きインストールしなければなりません。このユーティリティを動作させると、ローカルの生徒アプリケーションが停止し、教師アプリケーションが起動します。

WakeUp.exe

LanSchool 教師用コンソールは、「Lan パケット上にウェイクアップ」を発行し、特定の生徒用コンピュータをウェイクアップさせることができます。これを行うには、生徒用コンピュータは BIOS を全部リモートウェイクアップに設定されていなければなりません。残念ながら、全コンピュータ製造業者は、BIOS 設定を違うやり方でやるように設定しているようです。このユーティリティは、特定のマシンが適切に設定されているかを確認するために使われます。ターゲットコンピュータの MAC アドレスをコマンドラインオプションとして使います。たとえば、ターゲット生徒用コンピュータの MAC アドレスが 00-22-64-AD-9C-AC であった場合、あなたは WakeUp.exe を使って次のコマンドラインのそのマシンを「ウェイクアップ」させることができます : WakeUp.exe 00-22-64-AD-9C-AC [Enter].

著作権 © 1996-2011, LanSchool Technologies, LLC。全権留保。LanSchool® は LanSchool Technologies, LLC の登録商標です。

* その他のブランドおよび名称は各所有者の所有物です。